

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームほほえみ Aユニット	評価実施年月日	平成20年12月15日
評価実施構成員氏名	佐々木 直子 本間 隆子 畑 美里 佐野 裕也 柳川 恵美 宮永 真琴 柿原 希美 木幡 和子 佐々木優美		
記録者氏名	佐々木 直子	記録年月日	平成21年1月25日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域での生活と、その人らしい生活支援での安心した生活を支えるための事業所理念を策定している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々の利用者との関りの中や、利用者のケアについて話し合う時は、理念を念頭において振り返りや、ケア内容について考えるようにしている。職員は理念に近づけるよう、ケアの内容や自分・仲間に対し客観視して取り組めるよう努力している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族には面会時、または、ケアの考え方を説明する際に理念も含め伝えている。地域の方には、事業所を建設時、理念や役割を説明したり、運営推進会議や町内会の集まりなどで、事業所の取り組んでいることと共に伝えるようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時は近隣の人と挨拶を交わしたり、畑の作物の差し入れをしてくれる方もいる。近くに利用者が良く行く床屋があり、顔馴染みになっており利用者の理解を得ている。	○	行事に参加して地域との交流を図っているが、まだ近隣方との関わりをもつ機会が少ない為、事業所の理解に向けて、運営推進会議の参加や気軽に遊びにきていただけるよう声がけを行って行きたい。また、地域の方向けの広報誌を作成し回覧板などでまわしていただくなども行って行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入している。地域の盆踊り、お祭りなどに積極的に参加しており、お祭の時は、事業所前まで、子どもみこしが来てくれている。町内の資源ごみ回収や、不審者・変質者から児童を守るための「防犯協力店」として協力している		
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	介護職員の育成のため、実習生の受け入れを積極的に行っている。運営推進会議や事業所内の勉強会に地域住民を招き、認知症を理解する勉強会や、高齢者の疑似体験などを行っている。地域の方から入居の相談を受けたり、近所の独居のお年寄りを気にかけて、安否確認をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を実施する意義や目的を職員全員に伝え、自己評価は職員全員で取り組んでおり自分のユニットを客観的に評価する機会にしている。外部評価の結果の中で改善すべき点は、職員間で話し合い改善に向けての取り組みを行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では、事業所の取り組みを報告し、参加された方より意見・質問・要望を聞き、サービスに活かせる様努めている。また事業所として、地域に貢献できる事はないかの話し合いを行ったり、職員の勉強会や地域包括支援センター職員による講話なども取り入れ、より多くの参加と事業所の理解に向けて取り組んでいる。	○	評価結果や、今後に向けての課題について、会議で報告はしてきたが、その後の取り組みの経過報告がなされていなかったため、今後は、会議で取り組みの内容について経過報告をしていくと共に、意見をもらうよう取り組んで生きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市に定期的に情報提供したり、2ヶ月に1度、市全部の管理者を対象とした研修会が行われている。また市による実地指導があり事業所の実態把握と、サービスの課題を明らかにし、改善に向けての話し合いを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。利用者のケースで市担当者に相談をしてアドバイスを頂くこともあり、協働連携の関係に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	外部研修の参加や運営推進会議で地域包括支援センター職員による講話などで勉強する機会を作っている。必要な利用者には、その都度、説明をして支援につなげていけるよう対応はしていきたいが、職員全員の理解浸透には至っておらず、支援できる体制が万全とはいえない。	○	成年後見制度、地域福祉権利擁護事業の理解に向けて、事業所内での勉強会や積極的に外部研修に参加し、職員一人ひとりが、知識の必要性を理解し支援していきたい。対応が必要と思われる利用者がある場合は、職員に説明し、話し合いながら利用者の支援をしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	自分たちのケアを振り返りながら職員間で話し合い、虐待防止に努め安心して生活ができる環境に向けた取り組みをしている。	○	外部の高齢者虐待の研修には参加しているが、一部の職員であり、職員全員の周知には至っていないため、高齢者虐待防止法に関する理解浸透に向けて、事業所内での勉強会や研修に参加した職員による伝達講習会などを行っていく。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は時間をかけて、重要事項説明書や重度化した場合の対応、個人情報に関する同意などを説明し、理解・同意を得るようにしている。契約時、事業所のできる事、できない事を明確に説明した上で、利用者の状態の変化により退居になる場合は、本人・家族と相談しながら話をすすめている。また、契約内容が改訂になる場合は、家族に、その理由を示し、説明会や場合によっては個人的に説明する機会をもち同意を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	関りの中での利用者の言葉や、思いを言い表せない利用者であっても、表情や態度から思いをくみ取るよう努力している。利用者からの思いに対し、職員間で話し合い、改善に取り組んだり、思いが叶うよう日々のケアの中で活かすようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族の面会時、または毎月、担当職員が利用者のホームでの生活の様子、往診や受診の結果などを書いた手紙や写真などで伝えている。急を要する事に対しては、その都度、家族に電話連絡し報告・相談を行っている。金銭については、面会時に領収書とおこずかい帳を確認してもらい、サインを頂いている。来所が遠のいている家族や遠方の家族には領収書と、お小遣い帳のコピーを送付したり、返信用の封筒を同封し、ケアプランを確認・サインしていただき送ってもらうようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の面会時や毎月送付しているお手紙、運営推進会議など、また玄関先にご意見箱を設置するなど、気軽に意見・不満・苦情などを言ってもらえるような場面作りをしている。相談・苦情の利用の仕方を口頭と重要事項説明書に図式を載せ説明をしている。家族からの苦情に対し、苦情処理報告書を記載し、職員全員で課題を検討し改善に努め、今後も、積極的に伝えてもらえるようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員と話す機会をつくり、たあいもない会話の中から要望や意見を聞きだし、それを出来る限り反映させるよう努力はしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者・家族の状況、要望に合わせ、職員間で話し合いの場をもち、利用者が安全で、その人らしく生活が出来るように勤務時間の調整をしている。行事の時は職員を手厚くしたり、利用者の体調の変化や職員の急な休みに対応できるよう、管理者はシフトからはずれ臨機応変に対応できるようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの関係が利用者、家族が安心できて、信頼できる関係につながると考えており、各ユニットの職員を固定している。また、異動や離職でやむを得ない場合も引継ぎの期間をとるようにし、その交代の時期にも配慮している。新しい職員が入った時は利用者や家族に伝えるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々の職員の経験年数や段階に応じて、パート職員も含め外部の研修の機会を与えてくれる。参考になる資料は研修に行った職員が参加できなかった職員に対しコピーをして渡す等を行うようにしている。現場に来ては、随時、アドバイスを受けている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市・区の連絡会があり、管理職の勉強会や職員研修を行っている。又、他のグループホームの事業所と勉強会や職員の交換研修などを行い、親睦を深めながら事業所同士で協力し職員の育成や質の向上に取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日頃より職員と会話をする時間を持ち、ストレスや悩み、職員同士の人間関係を理解するよう努めてくれている。又、管理職を対象とした、他の事業所との合同勉強会や、職員の交換研修で交流や親睦を深める機会をつくってくれている。勤務中、気分転換が出来るよう休憩室を確保してくれている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	利用者の様子や職員の勤務状況の把握のため、現場に来てくれており、状況に応じた的確なアドバイスをしてくれている。職員の仕事に対する姿勢や、努力を評価し、向上心をもって働けるよう努めている。職員のスキルアップのため、積極的に研修や勉強の機会を与えてくれており、職場内で活かせる環境作りに努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	必ず、相談時は本人に会う機会を作り、困っていること、不安な事を等を理解し、本人に職員が受け入れてもらえるよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の困っていること、不安な事、又、これまでの本人の状況や苦労した事などを時間をかけて聞くようにしている。家族の思いを受け止めた上で、事業所としてできる事を伝え、利用につなげるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、本人・家族が何に困っているのか、どんな支援を必要としているのか、状況を見極め、できる事は本人・家族の思いをくみ取り、すぐ対応するようにしている。相談の状況によっては、必要に応じて他の事業所のケアマネージャや相談員と連絡を取り、他のサービス機関につなげるなどの対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人・家族が安心して利用できるよう、事業所を見学していただいたり、職員が自宅に訪問したり、顔見知りの関係が築けるよう配慮しながら利用に映るようにしている。やむを得ず、すぐ利用になった時は家族に協力してもらい面会を増やしてもらう事で安心してもらえるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人がどのような生活をしたいのかをくみ取り、一緒に生活する場として職員は本人の事を理解する事に努め、また、利用者に職員が受け入れてもらえるよう努めている。家族に近い存在として、一緒に生活をしていく中で、共に楽しみや悲しみなど喜怒哀楽を共にし支え合える関係作りに努めている。利用者を敬い、教えてもらう場面を多く作り、声がけや場面作りに配慮している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時やお手紙、電話連絡などで、本人の生活の様子(身体面・精神面など)を伝え、その状況に対し職員の思いを伝えている。本人の支援に対し、家族の思いや意向を聞き一緒に本人を支えていける様、家族にも伝え協力していただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族に本人の様子を知ってもらうため本人の日頃の様子をお手紙や電話で連絡するようにしている。本人・家族の関係性を見極めながら、外出・面会をすすめ、よりよい関係が継続していけるよう努めている。面会時は職員が調整役となり本人と家族が楽しい時間を過ごして頂けるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が昔から交流のあった知人や友人に気軽に遊びに来て頂けるよう家族を通し声がけを行っている。馴染みのある方が遊びにきたり、電話がかかってくることもある。実際に会いに出かけるといった事は積極的には行っていない。	○	本人から知人・友人宅へ行きたいとの希望があった場合は、との都度、家族と相談しつつ本人の希望に沿える様対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者個々の性格などを把握した上で、食事の時間や活動の場面で会話を多く持つよう職員が中心となり利用者の同士の関係作りをしている。個々のその日の体調や気分配慮しつつ利用者同士が支え合い生活できるように職員が調整役となっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去してからも遊びに来てもらったり、継続的な関わりができるようにしている。また、家族からの相談にのったり、身内の方を入居させたいとの相談にのることもある。利用者が他の施設・病院に移ってもお見舞いに行ったり、できる事は協力するよう伝え本人・家族との関係が切れないよう関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、関わりから利用者の思いをくみ取り、その人の希望の把握に努めている。意思疎通が困難な方は過去の生活などこれまでの事を知り、その人の事をよく知っている方達から情報をえるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に自宅訪問をし本人・家族、または他事業所の関係者から情報を得るようにしている。入居時に生活背景や既往歴などを記入できる書式を本人・家族に記入をお願いし、その人の生活歴の把握に努め、日々のケアに活かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	その人の生活リズムを知り、その人のペースで生活できるよう支援している。又、日々変化のある心身の状況を把握しつつ、できる事、できなくなってきた事を見極め、できる事が継続できるよう支援し、その日その日でその人らしく生活が送れるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族に日頃の生活の様子を伝え、思いや要望を聞き、本人の思いと共に自分らしく生活できるよう介護計画を作成して。アセスメントを行い、定期的にカンファレンスをし課題となる事を職員全員で話し合いをしている。その都度ケアの内容や結果を家族に伝え、家族も含め本人にとってより良いケアが出来るよう、それぞれの気持ちを介護計画の作成に活かしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	1ヶ月ごとにカンファレンスを行い、実践した事の評価から、職員全員で継続していく点、改善していくべき点を話し合い介護計画の見直しを行っている。期間途中で見直しが必要となった場合は、その都度、本人・家族の要望を取り入れ、協力医療機関とも相談しつつ新たな介護計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活の様子や本人の言動、ケアの実践と結果を、利用者個別で記録している。常にケアプランに沿ってケアができ記録が書けるよう、ケアプランを傍に置き対応している。勤務前には必ず記録を確認するようにしており、その都度、気付いた事や、介助方法について、話し合いを行い、介護計画の見直しや、新たなプランの作成に取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の要望に応じ、臨機応変に対応している。家族の宿泊、外出の付き添いや、外出場所場までの送迎、通院介助など、本人も家族も安心して、過ごせるよう職員の人数を増やしたり、勤務時間をずらすなどの対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会長さんや老人クラブの方との意見交換の場面でボランティアへの協力の呼びかけを行っている。警察、消防に災害・緊急時に対応して頂けるよう避難訓練、緊急時の対応について指導・アドバイスを頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人・家族からの要望がないため行っていない。		本人・家族の要望や必要に応じて、ケアマネージャーやサービス事業所と連携をとりながら他のサービスを活用する機会をつくっていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	定期的に行われる運営推進会議に出席して頂き、情報交換を行っている。成年後見制度や認知症についての講話を依頼し、家族・町内の方と共に本人をサポートできるよう地域包括支援センターとの関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所のかかりつけ医の他に、本人・家族の希望にそって、以前から利用していた、かかりつけ医の受診ができるよう支援している。専門機関の受診が必要になった場合でも、その都度、本人・家族に相談し、受診・治療を行っている。必要に応じて家族にも受診の付き添いをお願いするときもあるが、その都度、受診の付き添い・介助を行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	オープン当初からお世話になっていている認知症の専門医がおり、毎日の生活の中で、利用者の様子に変化や気になる事がみられた時は受診をし、関り方や内服の調整のアドバイスをもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に2回、看護師の訪問があり、その都度利用者の様子や健康状態について相談し、アドバイスをもらい、日々の体調管理に役立てている。訪問以外でも、利用者の様子や体調に変化がある時は、連絡がとれる体制を確保している。看護師との連絡ノートを作成し、利用者の体調や健康管理についてやり取りをしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の際は本人の関り方、日々の生活の様子などに関する情報を医療機関に提供している。医療機関と情報の交換を行い、本人の状況を見極めながら家族・職員・往診の医師と早期退院に向けて話しあっている。本人のストレス軽減を考え、頻繁にお見舞いに行ったり、食事がすすまない時は食事介助に行き、対応している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の対応にかかる指針に関する同意書を作成し、入居時、家族に説明を行い同意を得ている。本人の状況に合わせ、その都度、本人・家族・協力医療機関・職員で話し合い方針を理解した上で、取り組める準備は出来ている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人・家族の思いを大事にしながら、本人の状況を家族・協力医療機関を情報を共有している。ホームで出来る事・出来ない事を見極め、職員・家族・本人・協力医療機関と話し合いを重ね、その人にとって安心して終末期をむかえられる対応を考え支援している。協力医療機関とも連携された協力体制がとられておりチームで支援していけるような準備は出来ている。本人の急変時の状況を想定し、搬送先の病院の確保や対応について話し合いをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	自宅や他の事業所に移り住む時は、家族・本人に関するケア関係者で話す機会を持ち、情報交換を行っている。また、日々の生活の様子や支援の内容、注意が必要なこと等を伝え、今までの生活と変わらず安心して生活が出来るよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者の誇りや、プライバシーを損ねる事がないよう、利用者の表情や場面・状況に合わせ、相手を敬う気持ちを忘れず言葉かけや対応をしている。カンファレンス時には、利用者との関わりについて振り返る機会を持ち、また職員間でも利用者との関りで気になる事はお互いに注意するよう努めている。個人名を他者の記録に書かない事や、他の家族や外来者に利用者のプライバシーに関する事は話さないよう徹底している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者一人ひとり、物事の理解度が異なるがその人に合わせ、その人がわかる言葉や意思表示ができる方法で決めてもらっている。外食して食べたい物をメニューから選んでもらったり、料理本やチラシを見て食事の献立を決めたり、本人が好きそうな物を数個に絞り選びやすいようにするなど、日常の中で自分で決めたり、選べたりする機会を作るようにし、職員が決める事はないよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな一日の生活の流れは決まっているが、時間ですることは決まっておらず、その日の利用者の体調、気持ち、やりたい事をくみ取り、その人のペースに合わせ生活してもらえるようにしている。散髪、散歩、など本人から希望があった時はできる限り対応し、フロアの状況や体調、天候等で今すぐ行けない時は、いつになったら行けるかを伝え納得してもらっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	爪・髪の毛は伸びてないか、汚れた服を着ていないか等を常に気にかけて不十分な所はさりげなく手伝うようにしている。。朝の着替え時は、どんな服が着たいか希望を聞くようにしている。行事や活動の中で、普段着ないようなおオシャレを着て出かけたり、お化粧や、ネイルアート、美容パックなどを自分でしてもらったり、興味のある物は体験してもらうような機会を作っている。	○	季節行事で外出する機会はあるが、外出する前のお化粧などの、オシャレの時間に余裕をもち、外出だけの楽しみだけでなく、オシャレをする事の楽しみも感じていただきたい。また、衣類を一緒に買いに行く機会を増やして行きたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	その人のできる事を見極めながら、調理・盛り付け・片付けを職員と一緒にを行い、食事時は、同じテーブルで職員も食事をとり、音楽を流したり、会話をしながら楽しく食事ができるよう雰囲気大切にしている。季節・行事にあったメニューを取り入れたり、畑でとれた野菜を使って調理したり、苦手な食材が食べれるよう調理を工夫するなど、利用者一人ひとりが楽しんで食事ができるよう心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者の嗜好品を把握し、おやつ・飲み物は好みを取り入れたり、お酒・タバコを好む方は本人の様子や時間をみながら支援している。タバコは職員が管理し、本人の希望に合わせ、周りの利用者に配慮しつつ換気のよい場所で吸ってもらっている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄チェックを行い排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行いながら、出来る限りトイレでの排泄ができるようにしている。一人ひとりの状態に合わせて、パットを使いわけたり、また日常的にオムツやパットを使用する事がないよう、外す時間も作っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	意思疎通が困難な方に限っては、ある程度、職員が決めて入浴していただいているが、その日の体調や表情などをみながら行っている。今までの生活習慣を把握し、その日入浴の声をかけ、希望にそって入浴していただいている。拒否がある時は無理に促さず、本人の希望にそって時間や日にちの変更をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人の身体状態や生活習慣、日中の様子などに合わせ、本人が安心できる居間・フロアソファや落ち着いた居室などで休息を促している。また夜間、眠れるように、日中の活動と休息のバランスを考え過ごしていただいている。寝つけない時は、温かい飲み物を促したり、お話しをする等を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	昔、農家をしていた利用者には畑作りや作物の育て方を教えてもらう場面を作ったり、本人自ら意欲的にしてくれた活動や、お願いできそうな仕事を頼むなど、得意な事で力を発揮できそうな事を見つけながら支援をしている。活動後には必ずお礼の言葉を言い、次につながるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分で管理する方や自分で持っている心配と事務所での管理を希望する方がおり、その人の希望に応じ対応している。支払いが可能な方は、自分で支払っていただけるよう、その人の状態に合わせ、財布やお金を渡したり、本人と一緒に確認しながら支払いするなどを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	年間で季節行事の予定を組んだり、利用者の希望や気分に応じて散歩や近隣のお店、行きつけの床屋などに出かけている。暖かく天気のいい日は、気分転換や季節を感じてもらえるよう外出の声がけを行っている。歩行が困難だったり意思疎通が困難な方でも車椅子や自動車を使用し、ドライブや食事・おやつを食べに行ったり、花や動物を見に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日々の利用者との会話の中で探り、また家族からの情報を元に、希望にそえるよう本人・家族と相談し、計画をたて職員の勤務調整、緊急時の事を考え、事前に病院や警察を調べるなどの準備を行っている。場所によっては家族にも協力を得ている。利用者や家族から思いが出された時は、実現に向けて、職員間で話し合い支援につなげている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が気軽に電話できたり、また家族や知人から電話がかかってきたりしている。手紙のやり取りもあり、利用者にも手紙が届いたら返信をかくよう声をかけている。関係が打ち切られる事がないよう、気軽に電話・手紙のやり取りができるよう声をかけ関係が継続されるよう配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室以外にもフロアにソファやテーブルを設置して気兼ねなく過ごしていただいている。気軽に来やすい様、訪問時間は決めておらず、仕事帰りや、家族の都合のいい時間帯に訪問できるようにしている。職員は常に笑顔を心がけ、気持ちよく利用者と家族が過ごしていただけるよう配慮し、状況をみながら、さりげなく利用者と家族の間をとりもつようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	参考資料をフロアに置き職員全員理解すると共に研修等に参加し拘束をしないケアに取り組んでいる。日々、自分たちの関わりが拘束になっていないかを職員間で振り返りをし予防に努めている。	○	職員間で、利用者への声がけや、関わりを互いに確認し合い、身体拘束に対する意識をもち、自分たちのケアを振り返りながら取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関は鍵をかけず自由に入出入りが出来るようにしている。利用者が落ち着かなくなる時間帯や気分の状態を把握し、職員間で気にかけて連携をとりながら、鍵をかけなくても利用者が安全に外出できるよう、さりげない声がけや、見守り・付き添いなどを行っている。入所時にSOSネットワークの利用について承諾を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は居間や食堂で記録書きなどを行い、利用者の様子を感じ取れる場所で行っている。夜間は、定時で巡回を行い、利用者が起きて来た時に、すぐに対応できるような場所にいるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	すべてを取り除くのではなく、生活に必要な物は危険のないよう十分に注意し、自由に使用できるように配慮している。利用者の状況を見極めながら、注意の必要な物については使用后、事務所や目の届かない所に片付けるなどし取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	生活の中で起きうる事故や、一人ひとり利用者に起きうる状態を想定して、事故が起きないよう職員間で話し合い未然に防ぐよう努めている。看護師や消防署の協力を得て、避難訓練、緊急時の対応などの勉強会を行っている。事故が起きてしまった時は、事故報告書を作成し、事故の振り返りと今後の対策を検討し、家族への報告を行っている。当事者だけでなく、その日の勤務者とミニカンファレンスを行い、職員全員で事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て救急救命の講習会を行い職員全員が対応できるようにしている。また、勉強会のテーマで取り上げ、基礎知識を学ぶ機会を設けている。夜勤時の緊急対応についてマニュアルや連絡網を作成し、実際の場面で活かしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を年に2回、日中と夜間の火災を想定して実施している。近隣の他事業所と協力して行ったが運営推進会議で地域住民の方に協力を呼びかけたが参加がなかった。もしもの時に備え、定期的に、消火器や災害時の設備点検を行っている。	○	事業所の理解と共に、地域住民の方の参加、協力を得る為、積極的な交流と呼びかけを行っていく。回覧板などで案内をまわすなども行って行きたい。災害時の対応として、食料・水・オムツなどの備蓄、非常用具の準備をしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者の出来る事を活かすためにはリスクも伴う事、また取り組みについて家族に説明し理解をいただいている。その取り組みも、その人にとって苦痛にならないよう、職員間で話し合いをし、快適に過ごしてもらえるように努力している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタル測定を行い変動をみたり、利用者の食欲や顔色、排泄物、歩行状態など、普段の様子といつもと違う様子を記録に残し、体調の変化の早期異常のに努め、必要時には受診を行っている。気づいた事は、管理職へ報告、職員間の情報共有を徹底し、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の生活ファイルに処方箋を綴り、個々の内服薬の内容・副作用・服薬量を確認し、理解に努めている。特に、内服薬が変更になった場合には、状態の把握を注意深く行い協力医療機関に相談しながら調整を行っている。内服薬は、その人の状態に合わせて内服介助を行い、経過を記録に残し、変化を見ている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	散歩、活動、腹部マッサージを行うと共に、乳製品や食物繊維の多い食材・飲み物を取り入れ手いる。、個々に合わせた水分を促すようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	利用者の状態に合わせて、食後に歯みがき・うがいを力に応じて見守り、介助を行っている。就寝前には必ず歯みがきを行い、口腔内の状態を確認、義歯の洗浄を行っている。協力医療機関の歯医者による勉強会を行い、ブラッシングの仕方や口腔ケアについて知識をみにつけ個々の利用者の支援につなげている。また、年に1回無料の口腔内の検診を行っており、口腔内を清潔に保つアドバイスをいただいている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	必要な人には水分チェックを行っている。水分量が一日を通して適量が確保できるよう、本人の好みや、タイミングをみて促している。本人の好きな者や習慣を取り入れたり、利用者の状態に合わせて、食べる量や、献立のバランスに配慮しながら支援している。利用者に合わせて、不足している栄養が含んでいる食材を促すようにしている。定期的に管理栄養士に献立をみてもらいアドバイスをもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員・利用者はインフルエンザの予防接種をしている。利用者・職員だけでなく外来者にもうがい・手洗いをすすめている。塩素系漂白剤を薄めた物を、トイレ・食堂に置き使用後はすぐ消毒ができるようにしている。てすり、ドアノブの消毒も行っている。職員の理解を深める為にも参考資料を配布し、感染症の予防や感染後の対応について知識をもって取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所・調理器具などは毎晩、つけおき除菌をしている。布巾は使用後すぐ、漂白液につけておく等の取り決めをし清潔を心がけ取り組んでいる。買物前には冷蔵庫の食材の残りを確認し買いだめしないよう新鮮なものを購入している。出来る限り、食材は国産の物を使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	来客者が入りやすいよう、花壇を作ったりプランターを置いている。また季節感を意識的に取り入れる工夫や広報誌の掲示などを行い明るい雰囲気づくりを心掛けている。玄関にベンチやテーブルを置き、利用者や家族がゆっくり過ごせるスペースをつくっている。その日の勤務者がわかるよう職員の写真を掲示している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内には利用者が馴染みのある物、懐かしい物や季節を感じてもらえるような装飾品を置き、また心地よい音楽をかける等、落ち着いて過ごせるように配慮している。利用者が不快にならないように配慮しながら、五感を刺激するよう生活の中での匂い・音・食べ物などを工夫して取り組んでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	中玄関や2階のテラスにベンチを設置したり、またフロア各所にも長ソファや1人がけソファを設置し1人で外を眺めるなど気ままに過ごしたり、利用者同士で会話されたりと、くつろぎのスペースをつくっている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人と家族と相談しながら以前から使用している家具、装飾品を持ってきて頂いている。馴染みのある家具(タンス・鏡台・仏壇・ベットなど)や生活用品、写真を飾る、また利用者の好みに合わせ、じゅうたんやカーテンを用意してもらい本人が心地よく過ごせる空間づくりをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	こまめに換気を行い、トイレは換気扇と消臭剤で気なる臭いがこもらないようにしている。フロアや各居室に温度計を設置し、室温・湿度を気にかけ調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	広いフロアや季節関係なく活用できる中玄関・テラスを利用した散歩や活動を行っている。また、身体状況に合わせて活用できるトイレの設置や、スポットライトの活用、居室・共有スペースの戸の色を変えるなどの工夫をしている。台所・手すり・浴室・電気のスイッチ等は利用者が生活する中で使いやすい高さになっており、安全で安心して暮らせる環境になっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	職員間で話し合いの場をもち混乱や失敗の要因を探り、本人の状態に合わせ様々な工夫をしながら、その人の持っている力が活かせるよう環境整備に努めている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外回りには花壇や畑をつくって楽しめるようにしている。中玄関・テラスにベンチを置き、季節関係なく景色を楽しんだり、活動や食事をするなど、くつろぎのスペースとして、また気分転換の場として活用している。建物の玄関前には広いスペースがあり、涼んだり日向ぼっこができるようにしている。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】 （日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載） 平成14年に開設して以来、ほとんど利用者の入れ代わりがなく、職員とも馴染みの関係を築き、ほほえみを家として過ごして頂いている。8年目を迎え、認知症が進行し重度化してきているが、今までの利用者と職員との関係性を大事し、出来る限り、住み慣れた場所で、現在の機能を維持しながら生活できるよう様々な工夫をしながら取り組んでいる。また、出来る限り薬に頼らず、体調の管理を行うために、日々の利用者の状態把握や食事・水分管理に力を入れている。本人だけでなく家族との関係を大事にし、相談・報告を密に行っている。隣接している同法人のグループホームがあり、職員同士の情報交換や毎月勉強会を行い、協力体制を築きながら職員のスキルアップにむけて取り組んでいる。
--